

寒河江市立陵南中学校区

「みんなの5(GO)5(GO)目標」

～小学校・中学校で一貫した共通目標～

■ はじめに

寒河江市立陵南中学校は、寒河江中部小学校、南部小学校、柴橋小学校の3つの小学校から進学する、寒河江市でもっとも生徒数の多い（平成24年度640名）中学校である。

陵南中学校区では、「陵南学区小・中学校教育懇談会」が、これまでも長年行われてきている。平成23年度より、共通の指針をもって児童生徒を育てようということが話題になり、陵南中学校が事務局としてひな形を作成し、学区内の小学校との意見交換を通して「みんなの5(GO)5(GO)目標」ができあがった。

■ 各学校での取組

児童生徒や家庭も一緒になり、中学校区内のすべての小中学校で取り組んでいる。

目標は各教室に掲示し、家庭には各校のPTA総会で保護者に伝達し、各家庭に配付している。内容としては、最低限これだけは共通して取り組んでいこうというものに絞り込んでいる。

小学校低学年用のものは、内容を変えずに表記をひらがなにし、わかりやすいものにしている。また、教職員用には、「教師の指導意識」ということで、具体的な指導のポイントが示されている。

ここに注目！

- 「最低限これだけは共通して取り組もう」というものに絞り込んだ目標になっている。
- 小中連携の会議における話し合いの視点となり、成果と課題についても検証されている。

■ 取組の推進

校長、教頭、教務主任、小学校旧6年担任・現6年担任、中学校1年担任等による「陵南学区小・中学校教育懇談会」を開催し、授業参観や話し合いを行っている。5月は中学校、11月は小学校を会場にして行われ、「みんなの5(GO)5(GO)目標」についても、取組状況の反省と次年度に向けた話し合いが行われている。

■ 取組を行って

- 中学校の新入生オリエンテーションでも使用しており、新入生のみならず、保護者も中学校の基本的なことを理解することができ、安心して入学を迎えることができる。
- 小学校での指導と、中学校での指導に一貫性があり、児童が中学校に入学してからも戸惑うことなく学校生活に入っていくやすい。
- 交通安全に関する意識が高まり、小学校のうちから自転車に乗る際のヘルメット着用の意識が高まった。
- 今後は、児童会、生徒会で重点を決め、生活目標にさせるなどの取組につなげていきたいと考えている。

陵南学区小中学生の皆さんへ

平成24年度版 「みんなの 5 (GO)・5 (GO)」目標

生活

- ・正しいことは正しい、悪いことは悪いと言える人になろう
- ・1日の生活を通して 元気なあいさつ をしよう
- ・「はい」・「ありがとう」が言え、場に応じた言葉づかいをしよう
- ・交通安全に気をつけよう いのちは自分で守ろう
- ・身だしなみや、よりよい生活リズムに気をつけて生活しよう



学習

- ・まなび合う姿勢を大事にしよう
- ・発表ははっきりと、話は「目」で聞こう
- ・学習道具をしっかり準備して、えんぴつで正しい字を書こう
- ・家庭学習でも、やる気を持って取り組み、努力を続けよう
- ・本をたくさん読もう



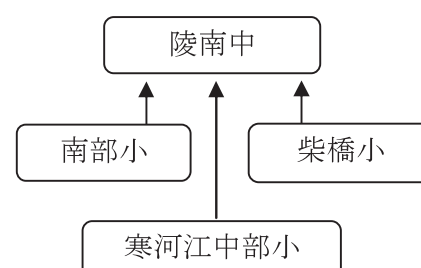
■ まとめ

取材を通して、この目標は、「陵南学区小・中学校教育懇談会」における話し合いのポイントになり、成果と課題についても検証を行うなど、陵南中学校区の小中連携の核となっていることを感じた。また、小中学校共通の指導を行うことは、中学校進学時の戸惑いを少なくする意味でも大切なことである。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
寒河江市立陵南中学校	640名（23学級）
寒河江市立寒河江中部小学校	628名（24学級）
寒河江市立南部小学校	351名（14学級）
寒河江市立柴橋小学校	285名（15学級）

<単一複連携>



山形市立第十中学校区

「養護教諭同士の連携と特別支援教育における連携」

■ はじめに

山形十中学区は、生徒数が非常に多い学区である。定期検診時の学校医の連絡調整など、小中学校の養護教諭が連絡を取り合う場面はあるが、山形十中学区では養護教諭同士が共同研究を行うなど、一歩踏み出した連携を行っている。また、特別支援学級に在籍する児童の保護者には様々な葛藤が生じるため、保護者の不安の軽減や小学校の特別支援教育に関する高いスキルを中学校側が学びたいという思いから、平成22年度より、最も多くの児童が山形十中に進学する南沼原小学校との間で、特別支援教育における小中連携も始めている。

■ 小中養護教諭による共同研究

児童生徒の健康維持に関する課題解決には、生活リズム、食習慣など、長期間にわたる環境要因が関係してくるため、小中学校の養護教諭8名で共通のテーマを掲げて共同研究を行っている。アンケートも6歳から14歳まで小中の区切りを設けずに分析をし、児童生徒の健康維持行動を支える小中一貫した体制づくりをめざしている。

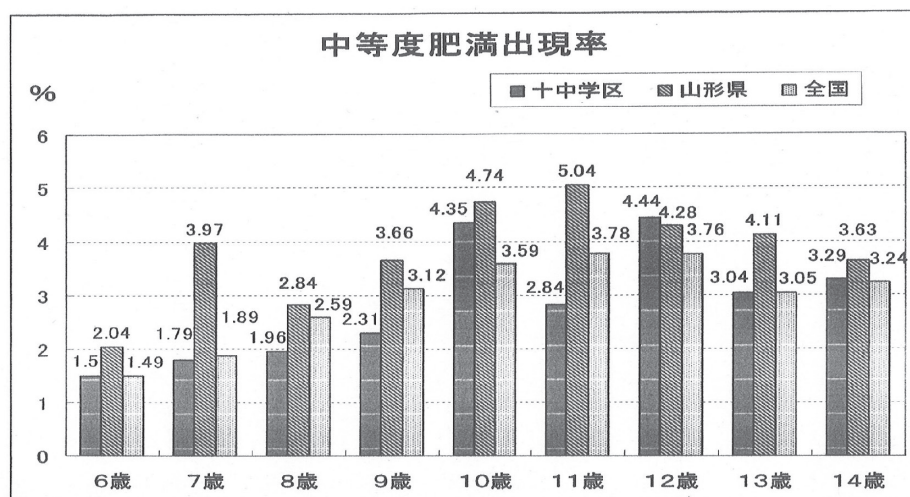
平成23年度の研究テーマ 「子どもの肥満」を考える

【山形十中学区の現状】

- ◇肥満傾向出現率は減少傾向、痩身傾向出現率は増加傾向。
- ◇環境要因（家庭生活・食生活など）が関与。
- ◇肥満指導の受診状況：小学校 51.7％ 中学校 42.9％

ここに
注目！

児童生徒の現状を各学校単位ではなく、中学校区単位で考え、9年間にわたって統一した健康指導をめざしています。



取組を行って（教頭先生へのインタビューから）

- 小中学校の養護教諭で共同研究を行うことにより、学区の小中学校が同じ視点で健康維持に関する生活指導を行うことができるため、指導が浸透しやすい。
- 現在は教師同士の共同研究であるが、今後は研究の結果を生徒に還元する場面（食育に関する講演会の合同開催や生徒保健委員会の活動など）での小中学校の児童生徒同士による交流活動なども期待できる。

■ 特別支援教育における連携

中学校入学前のオリエンテーションでは、中学校生活に関する丁寧な説明が行われている。また、南沼原小学校特別支援学級在籍の児童と保護者は、年に5～6回ほど中学校の授業を定期的に参観している。そのため、小学生の保護者が中学校の先生に相談しやすい環境になっている。特に、進路（高校入学や就職など）は保護者にとって大きな悩みであるため、中学校の教員は、中学校卒業後の進路まで一緒に考えるという姿勢で小学校の保護者とかかわっている。

さらに、中学校の特別支援学級担当教員は、小学校の指導方法を学ぶためや生徒の情報共有のために定期的に小学校の授業参観を行っている。

ここに
注目！

（４）若草学級の説明

- ① 学級について
- ② 授業などについて
- ③ おもな行事について
- ④ 一日の生活について

（部活動を含む）

時間割や教育課程、年間行事予定、テストの計画など具体的な数字も示した細やかな資料が配付されています。

平成24年度入学予定

山形市立第十中学校

若草学級新入生オリエンテーション

1 日時 平成24年2月25日（土） 10:30～12:00

2 場所 若草1組教室

3 内容

(1) 開会のあいさつ 阿部

(2) 教頭あいさつ 佐藤教頭

(3) 自己紹介 参会者全員

(4) 若草学級の説明

① 学級編成について 鈴木

② 授業などについて 鈴木

③ おもな行事について 鈴木

④ 一日の生活について 鈴木

（部活動を含む）

(5) 質問 阿部

(6) 若草学級の教室案内 阿部

(7) 次回新入生

オリエンテーションの連絡 阿部

(8) 閉会のあいさつ 阿部

取組を行って（教頭先生へのインタビューから）

- この分野は小中学校ともにニーズが高い。山形十中学区では、丁寧なオリエンテーションを行ったり、教員間の情報や指導方法の共有を図ったりしている。
- 保護者も含めた定期的な授業参観などにより、小学校の保護者と中学校の相談の機会も設けており、それが保護者に安心感をもたらしている。

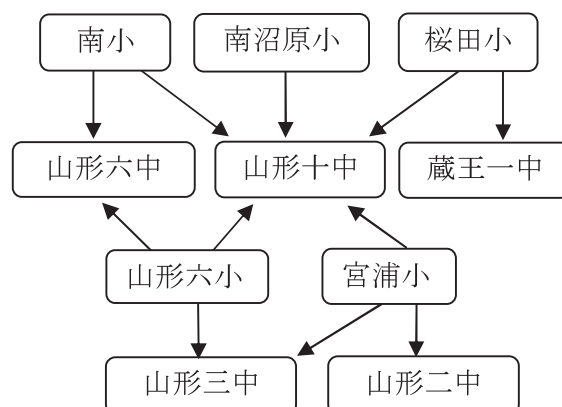
■ まとめ

取材を通して、5つの小学校から進学してくるという学区事情などもあり、児童生徒の生活指導に重点を置いた連携が、無理のない形で行われていると感じた。特別支援学級に在籍する子どもの保護者に安心感を与え、小学校段階から中学校卒業後の進路を見通して話し合うことなどは、小中連携における新しい切り口になりうると感じられた。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数
山形市立第十中学校	744名（25学級）
山形市立南沼原小学校	986名（37学級）
山形市立桜田小学校	542名（20学級）
山形市立南小学校	617名（22学級）
山形市立宮浦小学校	370名（15学級）
山形市立第六小学校	506名（21学級）

< 複一複連携 >



最上町立最上中学校区

「最上こどもサミット」～小中高校の連携を通して～

■ はじめに

最上町は町をあげて幼保小中高連携教育を推進している。町内の中学校を最上中学校に統合して平成24年度で27年目を迎えるが、統合当時は生徒指導面での課題が多かった。そこで、小中連携の取組を通して、地域に子どもが出向いていく機会を増やし、地域とともに子どもを育てることに積極的に取り組んでいる。

平成24年度より満沢小が向町小に統合され、6つの小学校から進学してくることになった。6つの小学校は学校規模にかなりの違いがあるが、小小連携が充実している。年3回の「小規模校集合学習」や「修学旅行（宿泊研修）」も一緒に行っている。また規模の異なる小学校間の交流も行われている。このような小小連携の充実により小中連携もスムーズに行われている。

■ 最上こどもサミットの様子

年に1度、最上中学校を会場に、6つの小学校児童会役員、最上中学校の生徒会役員、県立新庄北高等学校最上校（資料での参加）が一堂に会し、アイスブレイクや協議を行っている。協議内容は、最上こどもサミット開始当初から続く「共同行動宣言」を共通テーマとして、各校でその宣言にむけて取組を行い、それぞれの特色ある活動を共有している。また、小中高ボランティア活動についても話し合いがなされ、小中学生の主体的な活動として長い間継続している。



最上こどもサミットの様子

共同行動宣言

テーマ「声でつながる最上っ子」

1. あいさつをしっかりとしよう
2. 自分の気持ちを相手に伝えよう
3. 礼儀を大切にしよう

現在の高校3年生が中学3年生の時から最上こどもサミットが始まりました。「共同行動宣言」はスタート時から継続しています。



小中高合同ボランティアの様子

ここに注目！

【最上中学校の教頭先生へのインタビューから】

教育委員会の方針を受けて、町をあげて連携の取組を推進している。その中で、“一緒に学ぶ姿勢”を大事にしている。連携のイメージとして、“一緒に学んでいきましょう”“一緒に活動していきましょう”という姿勢で、縦と横のつながりを大切にしている。

平成24年度	
第1回 最上こどもサミット	
日 時：2012年5月15日（火） 午後3時～4時30分 場 所：最上町立最上中学校 4階多目的ホール	
全体進行（事務局長 大場彩絵）	
1. 開会のあいさつ	（生徒会副会長 今井朋加）
2. アイスブレイク 『ズバリ 当てましょう！』	（議長 菅原優里花）
3. 趣旨説明	（生徒会長 草薙克大）
4. 協議	議事進行（議長 菅 秀平）
（1）各学校での取り組み説明 ① 最上中 ② 大堀小 ③ 月楯小 ④ 向町小 ⑤ 東法田小 ⑥ 富沢小 ⑦ 赤倉小 ⑧ 新庄北高最上校	
（2）意見交換 5. 小中高合同ボランティアについて 6. 閉会のあいさつ	
	（JRC委員長 古閑梨奈） （生徒会副会長 菅 詩織）

- 【協議内容（抜粋）】各校の報告書より
- 取り組んでいくうえでの目標
- ・あいさつ運動に意欲的に参加して、普段の友達や先生方、地域の方々へのあいさつが向上していくようにしていきたい。（最上中）
 - ・24人の児童みんなの笑顔がいっぱいになって、楽しいと思える学校。（月楯小）
 - ・みんなが楽しく、いつでも笑顔で生活できるようにしたい。（東法田小）
 - ・さわやかなあいさつと明るい歌声がひびき合う学校。（富沢小）
 - ・明るい声であいさつ運動を定期的に行い、ポスターを掲示して呼びかけ合う。（新庄北最上校の共同行動宣言への取組）
- 取り組んでいくうえでの悩み
- ・あいさつに対する一人一人の意識にまだ差がある。（最上中）
 - ・あいさつ運動を通してあいさつの大切さを理解させ、しっかりとあいさつする意識を高めていきたい。（大堀小）
 - ・あいさつをしてもなかなか返してくれない人がいる。（向町小）
 - ・友達同士、地域の方へのあいさつもできるようにあいさつ運動を工夫する。（赤倉小）

■ 取組を行って

このサミットは、中学生がアンケートをとり企画・立案から運営までを行い、主体的な活動として定着してきている。今後は「共同行動宣言」なども見直しを図ったり、協議内容の充実を図ったりするなど、サミットの内容を充実させる時期に入ってきている。

■ まとめ

取材を通して、規模が違う6つの小学校、中学校、そして高等学校までの児童生徒の交流を中心とした取組であり、町全体で取り組んでいる背景や“一緒に学んでいこう”という教員間の意識が連携を支えていることがわかった。特にサミットの運営では、中心である中学生が主体的に活動していこうとする姿が見られた。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
最上町立最上中学校	244名（10学級）
最上町立大堀小学校	143名（8学級）
最上町立月楯小学校	24名（3学級）
最上町立向町小学校	192名（8学級）
最上町立東法田小学校	18名（4学級）
最上町立富沢小学校	67名（7学級）
最上町立赤倉小学校	32名（4学級）

<単一複連携>

